

1 主体的な学習を支える評価の重要性

学校における教育活動は、学校の教育目標の実現を目指して、計画、実践、評価の過程を繰り返しながら行われています。つまり、教育活動を計画し、実践した過程や結果を評価することによって改善が加えられ、新たな活動が展開されています。

生活単元学習の計画・実践では、単元づくりにおいて子どもの教育的ニーズを包括するテーマを設定し、主体的な活動を支える多種・多様な活動及び個々に即した手だてを具体化することが必要であることから、評価に当たっては改善のポイントを明確にした取組が大切です。

2 生活単元学習の授業改善のための視点

生活単元学習の改善・充実を図るための評価を行う視点としては、次の7点が挙げられます。

- ① 学校観・教育観
- ② 教育課程における生活単元学習の位置づけ
- ③ 年間指導計画の作成
- ④ 単元づくり
- ⑤ 授業づくり
- ⑥ 授業の実践と評価
- ⑦ 授業の改善

この7つの視点における評価・改善のポイントについて表1*)に整理しました。

これらの視点はすべて有機的につながり合っています。例えば、学校生活や学習活動に対する見通しは、一時間の授業だけのアプローチでは不十分です。毎日の学校生活を規則的でまとまりのある構造としていくこと（週時程の見直し等）とともに、子どもの実際の生活に即した単元配列や各指導の形態との関連などの視点から検討していくことが必要であると考えられます。

最も重視すべき点は、授業づくりと日々の改善であると言えるでしょう。子どもが主体的に活動する授業は、子どもにとって意欲のもてる課題（テーマ）が用意され、自ら学習活動に取り組めるための様々な条件が整えられることが必要となります。評価に当たっては、子どもの実際の活動状況をもとに、子どもの主体的活動を意図して準備された様々な手だての有効性を検討することになります。

「⑦ 授業の改善」の視点については、授業を改善するための評価の在り方そのものを評価する視点であり、授業研究の企画・実施等を含めて、授業改善に向かう教師としての姿勢を問う視点です。

この7つの視点は、指導計画作成段階（単元計画時）、単元及び授業展開時、授業及び単元終了段階において意識される必要があります。日々の授業の改善をルーチン化し、評価の成果を蓄積していくことにより、学校全体としての教育課程改善の取組や学校観・教育観の共有が図られていくものと考えます。

3 評価の活用

生活単元学習の授業改善は、計画的、継続的、組織的に進めることが大切です。

多くの学校における生活単元学習はチームティーチングで行われており、実態把握や学習状況の評価に当たっては、教師個人で行うよりは教師集団として行う方がより客観的で適切な評価を行うことができます。

特殊学級など担任が一人で指導を行う場合などにも本人や保護者と連携した個別の指導計画の作成により、そこで示された個人目標に照らし学習状況の評価していくことが評価の妥当性を高めていく上で重要となります。客観的で妥当性の高い評価は、より本人や保護者にも分かりやすい評価につながっていくと考えられます。

また、このような取組を実現していくためには、教師間で日常の情報の共有や授業改善のための日常的な連携システムを工夫することも重要です。

評価と指導は表裏一体であり、生活単元学習を充実させ、子ども一人一人のより豊かな生活の実現を図るためには、PDCAサイクルで授業改善を常に行い、よりよい授業づくりに取り組んでいくことが何より大切です。

＊）このポイントは、本書第3部Ⅰ～Ⅳで述べた改善・充実のポイントを整理したものです。授業の自己点検や学校・学級としての教育課程の改善、または組織的な授業研究における評価観点の設定などに、活用しやすいよう表としてまとめたものです。

表1 生活単元学習の授業改善のための視点 (案)

教育課程の編成・実施・評価・改善

改善を図るためのポイント

学校観・教育観

- 今日の障害観、支援観を踏まえた学校教育目標（現在及び将来の生活を見通し）
- 「規則的でまとまりのある学校生活」の具現化（知的障害の特徴や学習上の特性への対応）

教育課程における生活単元学習の位置づけ

- 教育課程における領域・教科を合わせた指導の位置づけの明確化
- 見通しをもって取り組みやすい週時程の工夫

年間指導計画の作成

- 子どもの生活上の課題のとらえ ○季節や時期に即した単元の配列 ○子ども主体の学習活動
- 地域と連携した学習活動 ○単元間のつながりや発展性 ○他の指導の形態とのつながり

単元づくり

単元計画づくりのポイント

- 子どもの生活のとらえ ○個々の学習上の特性（その子なりの学び方） ○過去の学習における意欲や課題意識の芽生え
- 興味や関心 ○生活経験、学習経験

テーマの設定と教材化

- 子どもが主体的・自立的に取り組める活動内容と方法 ○実際の、総合的な活動 ○学習環境
- 子どもが生活や興味に即したテーマ ○繰り返し取り組み、見通しを持ちやすい構成や展開

授業づくり

授業案づくりのポイント

- 子どもの経験、興味や関心、意欲、学び方等を考慮した具体的な目標
- 個別の指導計画の目標との関連
- 子どもが主体的・自立的に取り組む展開
- 子どもがやり遂げられる活動量、製品の量、活動時間
- すべての子どもが十分取り組める多種、多様な活動
- 生活のリアルティに即した教材・教具の準備・開発と個に応じた道具や補助員の工夫
- 適切な集団構成（集団化と個別化への配慮）
- チーム・ティーチングの在り方
- 評価観点の具体化

実践と評価

実践上留意するポイント

- 活動の様子に応じたかかわり ○子ども、教師の協働的な活動 ○授業に応じた記録方法の工夫と役割分担
- 子どもの活動状況の把握と、これに基づいた改善ポイントの具体化（手だて、活動方法、活動内容、学習環境、指導目標）

授業の改善

自己点検型または組織的な授業改善のポイント

- 日常的な「自己点検型」の授業改善（記録に基づいた日々の授業の改善方法の具体化）
- 組織的な授業研究の実施（授業研究を深める視点の共通理解と研究方法の工夫、開発）
- 授業研究に基づく指導計画、教育課程の改善